



米軍によるイラン核施設攻撃に端を発した
ホルムズ海峡封鎖とエネルギー危機について
(2026年3月8日現在)

現在中東周辺には2空母打撃群が派遣されているほか、1空母が増派の見込み また、第12空挺師団の追加派遣が取り沙汰されている

現在のアメリカ軍展開状況

出所：USNIニュース等より作成 写真：米中央軍司令部Webサイト



- 1月27日に、南シナ海に派遣されていた空母エイブラハム・リンカーン打撃群がアラビア海に派遣された
- 2月13日にはベネズエラのマドゥロ大統領拘束作戦に従事していたジェラルド・R・フォード空母打撃群が追加派遣された
- 2025年6月のイラン・イスラエル戦争ではカールビンソン、ニミッツの2空母打撃群が中東近海に派遣された
- 更に、2026年に入って米本土・欧州から中東に向けて米空軍の輸送機が大量に飛行し、何らかの軍事物資を輸送していたとみられており、米軍によるイラン攻撃の可能性は高いと見られていた
- 3月6日のワシントン・ポストはルイジアナ州で訓練していた米陸軍第82空挺師団が訓練中止、ルイジアナ州へ移動を命じられ、中東へ移駐予定と報じた
- 更に、3月7日には訓練中であった空母ジョージ・H・W・ブッシュがアラビア海に派遣されることが決まった



今回投入されたアメリカ軍の戦力はイラク戦争後最大規模 米政府はイラン政府支配構造の打倒を掲げており、昨年6月とは全く異なる

アメリカ軍・イスラエル軍による作戦概況（3月4日現在）

出所：米中央軍司令部Webサイトなど

作戦概況

- 作戦開始時刻：2026年2月28日 午前1時15分
- 作戦地域：CENTCOM(中央軍)担当地域
- 攻撃対象地域：イラン
- 攻撃した目標数：1,700超
- 攻撃目標：指揮統制センター
IRGC統合司令部
IRGC航空宇宙軍司令部
統合防空システム
弾道ミサイル施設
イラン海軍艦艇
イラン海軍潜水艦
対艦ミサイル施設
軍事通信施設

投入された主なイスラエル軍戦力

- 初日だけで200機以上の航空戦力を投入
- レバノン方面には91師団、210師団、146師団、401旅団、769旅団、300旅団ほか

投入された主な米軍戦力

- B-1ランサー戦略爆撃機
- B-2ステルス爆撃機
- B-52戦略爆撃機
- 自爆型ドローンLUCAS
- パトリオット防空システム
- THAADミサイル
- F-15イーグル戦闘機
- F-16ファイティングファルコン戦闘機
- F/A-18ホーネット戦闘爆撃機
- F-22ラプターステルス戦闘機
- F-35ライトニングIIステルス戦闘機
- A-10攻撃機
- EA-18Gグラウラー電子戦機
- 早期警戒機
- 空中通信中継装置
- P-8ポセイドン哨戒機
- RC-135偵察機
- MQ-9 リーパー無人機
- M142高軌道ロケット砲システム(HIMARS)
- 原子力空母（A・リンカーン、G・R・フォード）
- ミサイル駆逐艦（デルバート・D・ブラック、スプールアンス、マハン、ベインブリッジ、トーマス・ハドナー、バルクリー等）
- ドローン迎撃システム
- 空中給油機
- 補給艦
- C-17グローブマスターIII輸送機
- C-130輸送機



- 米中央軍司令官のブラッド・クーパー海軍大將は記者会見で「作戦を遂行している将兵は5万人超」と明らかにしている
- 投入戦力としては、イラク戦争後最大規模である
- また、イスラエル国防軍も初期攻撃で戦闘機200機以上、500以上の目標を攻撃、550発の兵器を投下している
- 今回は「湾岸戦争以来最大の航空作戦」である可能性が高い

など

米軍・IDFは宗教指導部・軍・革命防衛隊・原子力部門の主要要人を殺害 他方で、行政部門の要人は殺害されていない

アメリカ軍・イスラエル軍が殺害したイラン政府主要要人（3月4日現在）



アリー・ハメネイ師
第2代最高指導者



モハマッド・シーラーズイー
イラン軍陸軍准将
最高指導者軍事事務局長



アブドルラヒーム・ムーサビ
イラン陸軍少将
イラン軍参謀総長



ムハンマド＝レザ・ガラエイ・アシュティアニ
イラン軍陸軍准将
イラン軍参謀副総長



モハマド・パクプール
イラン革命防衛隊少将
イラン革命防衛隊陸軍司令官



ホセイン・ジャバル・アメリアン
イラン革命防衛隊元准将
防衛技術革新研究機構会長



アリー・シャムハーニー
イラン海軍少将
最高安全保障最高評議会顧問・元国防大臣



モフセン・ダレバギー
イラン空軍准将
後方支援担当副司令官



アジーズ・ナシルザーデ
イラン空軍准将
国防大臣



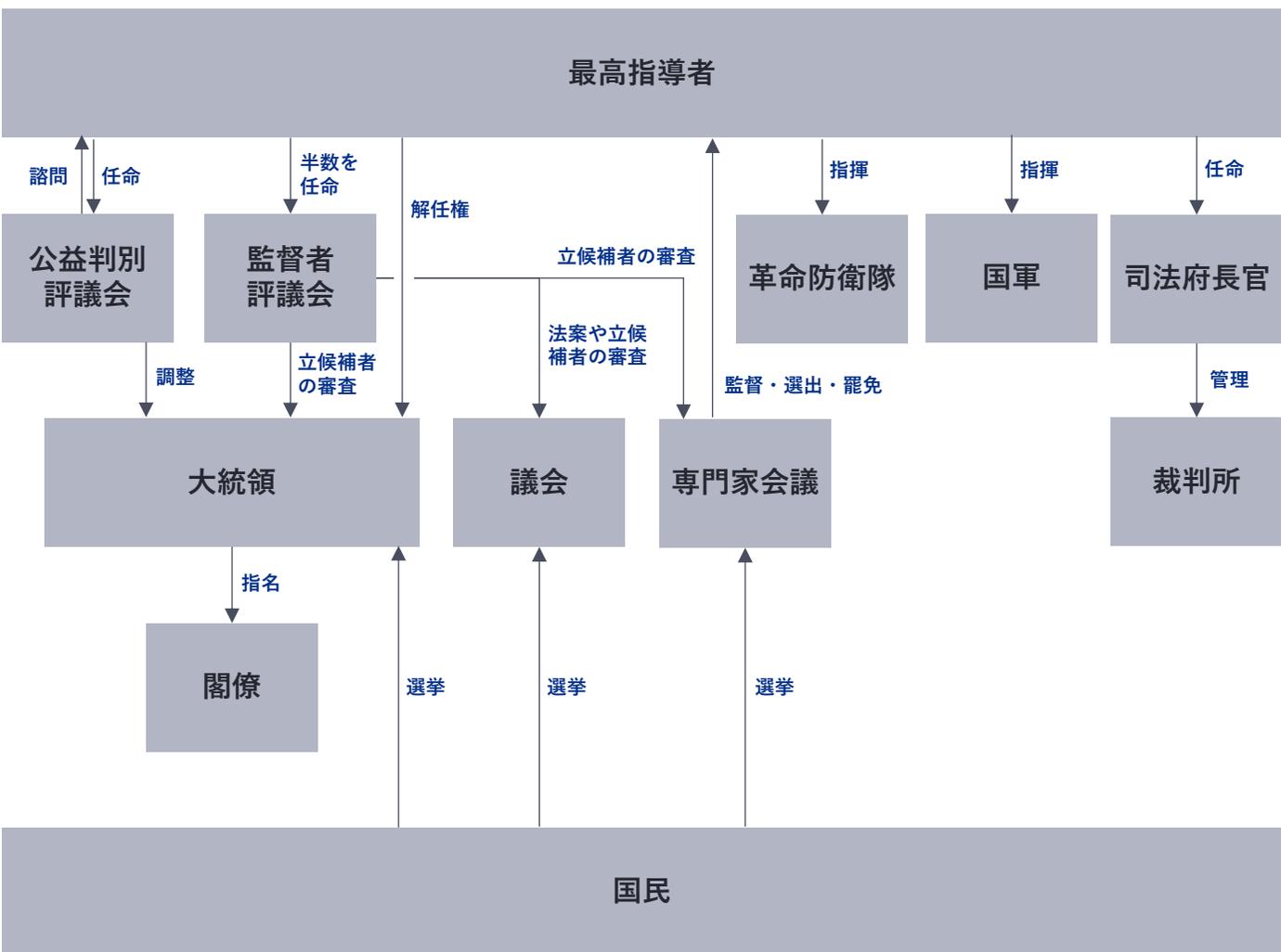
ゴラムレザ・レザイアン
警察情報機構准将
警察情報局長

● 革命防衛隊

- 参謀長 マスード・シャネ准将
- コッズ部隊地域調整官 ホセイン・モルタザヴィ准将
- 航空宇宙軍司令官 アミール・アリ・ハジザデ准将
- 航空宇宙軍幹部 ハミド・ファゼリ
- 海軍司令官 アリレザ・タンシリ准将
- 調整担当副司令官 モハンマド・レザ・ナクディ准将
- 陸軍調整官 アリ・アクバル・プルジャムシディアン准将
- 情報局長 モハンマド・カゼミ准将
- サイバー部隊責任者 ジャバド・ババエイ
- イラン海軍司令官 シャフラム・イラニ少将
- イラン空軍司令官 ハミド・バヘディ准将
- バスījージ司令官 ゴラムレザ・スレイマニ准将
- 最高安全保障委員会事務局長 アリ・アクバル・アフマディアン少将
- 最高指導者事務所長 モハンマド・モハンマディ・ゴルバヤガニ
- 最高指導者事務所政務官 ヴァヒド・ハガニアン
- 最高指導者儀典長 バハル・アミール・モガダミ
- 最高指導者戦略通信担当 アリ・アスカリ
- 最高指導者経済顧問 バハ・エディン・ホセイニ・ハシェミ
- 国会議長 モハンマド・バゲル・カリバフ准将
- 公益評議会事務局長 モフセン・レザイ少将
- 情報省対スパイ局長 ハッサン・ハティブ
- 原子力庁幹部 セイエド・アミール・ホセイン・フェキ
- ミサイル技術科学者 マンスール・ジャラリ
- 核施設警備責任者 アリ・マフムード・アバディ
- 国家安全保障最高評議会戦略顧問 セエド・モスタファ・コシュシャシュム
- 国家安全保障最高評議会国際問題顧問 カゼム・ガリババディ
- 国家安全保障最高評議会政策調整官 アミール・モハマディ
- 情報通信技術安全保障担当 モハンマド・ハッサン・ナミ准将
- テヘラン金曜礼拝指導者 アフマド・ハータミー

3月8日にモジタバ・ハメネイ師が最高指導者に選出された 長年モジタバ師は最高指導者官房で実質革命防衛隊を指揮する立場だった

モジタバ師とイランの統治体制図

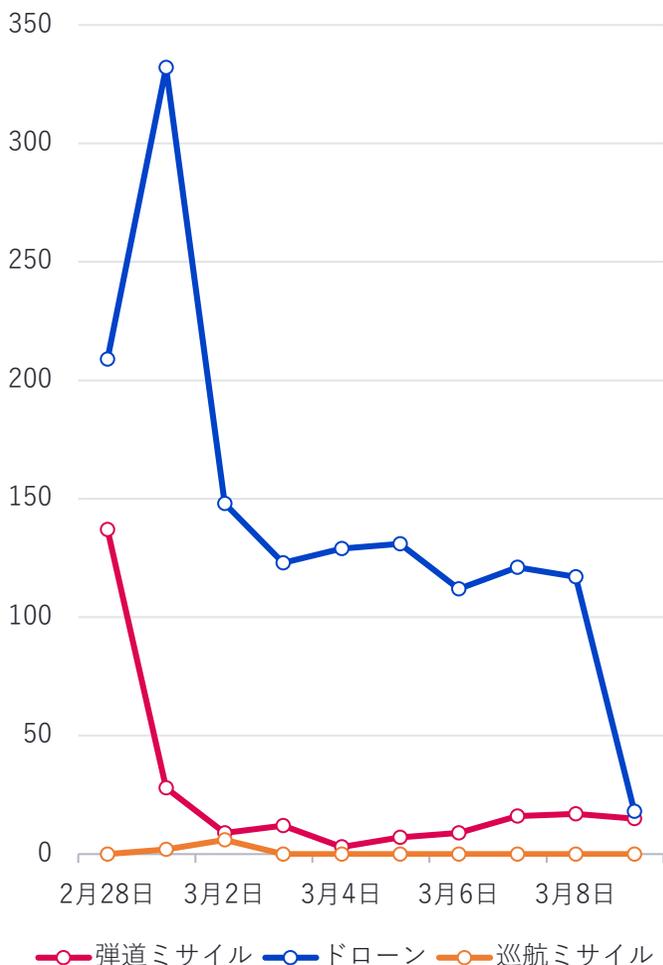


- モジタバ師は最高指導者の官房組織ベイトの中樞にて要職を長らく務めており、革命防衛隊を指揮する立場
- モジタバ師の選出は既定路線であると見られており、対米強硬路線は変更なしとみられている
- モジタバ師はイスラエル軍の攻撃で既に負傷している可能性が取り沙汰されている

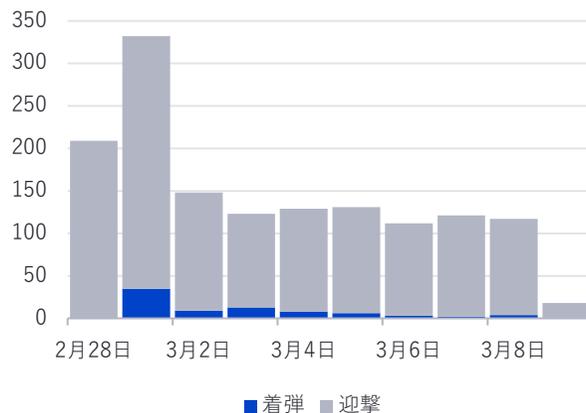
従来と異なり、イランは湾岸諸国に対しても攻撃を実施 ミサイルの残段数は120基とみられ、革命防衛隊はドローンを中心にした戦闘に移行

アラブ首長国連邦への攻撃回数

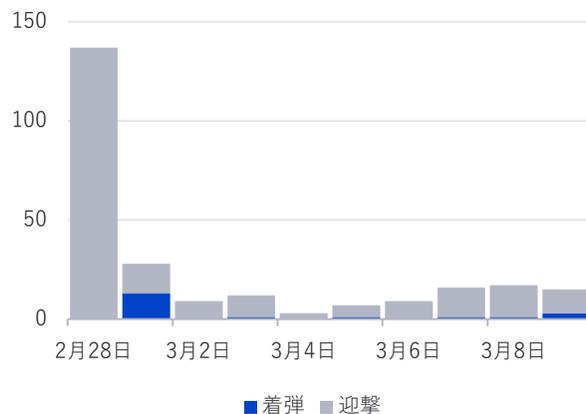
出所：アラブ首長国連邦 国防省



ドローンの迎撃状況



弾道ミサイルの迎撃状況



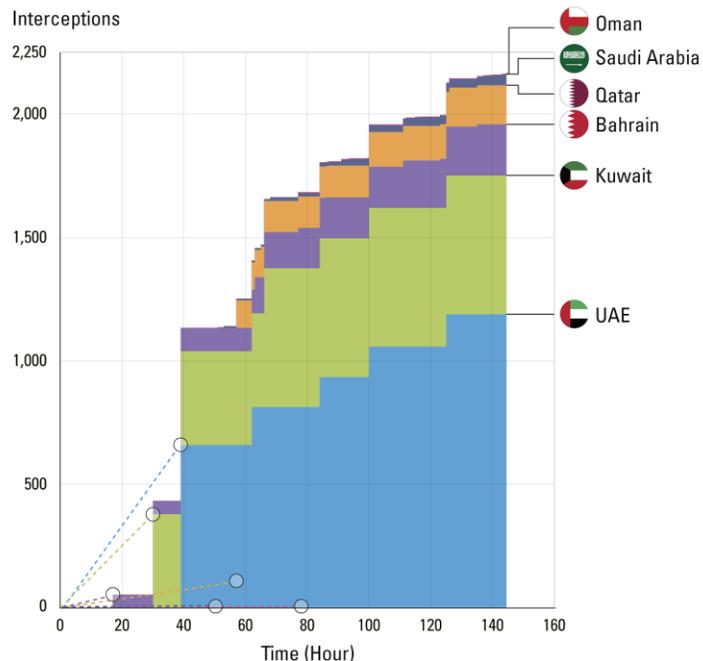
- イランは湾岸諸国に対しミサイル・無人機による報復攻撃を実施した
- UAE、カタール、バーレーン、クウェート、サウジ、オマーン周辺が主な対象となり、空港・港湾・石油施設・米軍関連施設などが標的となった
- 公開情報の最小確認値では、弾道ミサイル約293発、巡航ミサイル8発、無人機約1,280機が湾岸地域に向けて発射または探知されている
- UAEでは死者3人・負傷112人が確認され、クウェートでは軍人2人と米軍関係者6人が死亡した
- 多くは迎撃されたが、港湾や石油施設、船舶への被害が発生し、湾岸の物流・エネルギー供給にも影響が生じた

イランの湾岸諸国に対する攻撃は、UAE・次いでクウェートに対するものが多い 特にアル・ダフラ空軍基地やアル・ウデイド空軍基地への攻撃が激しい

湾岸諸国への攻撃回数(迎撃分)

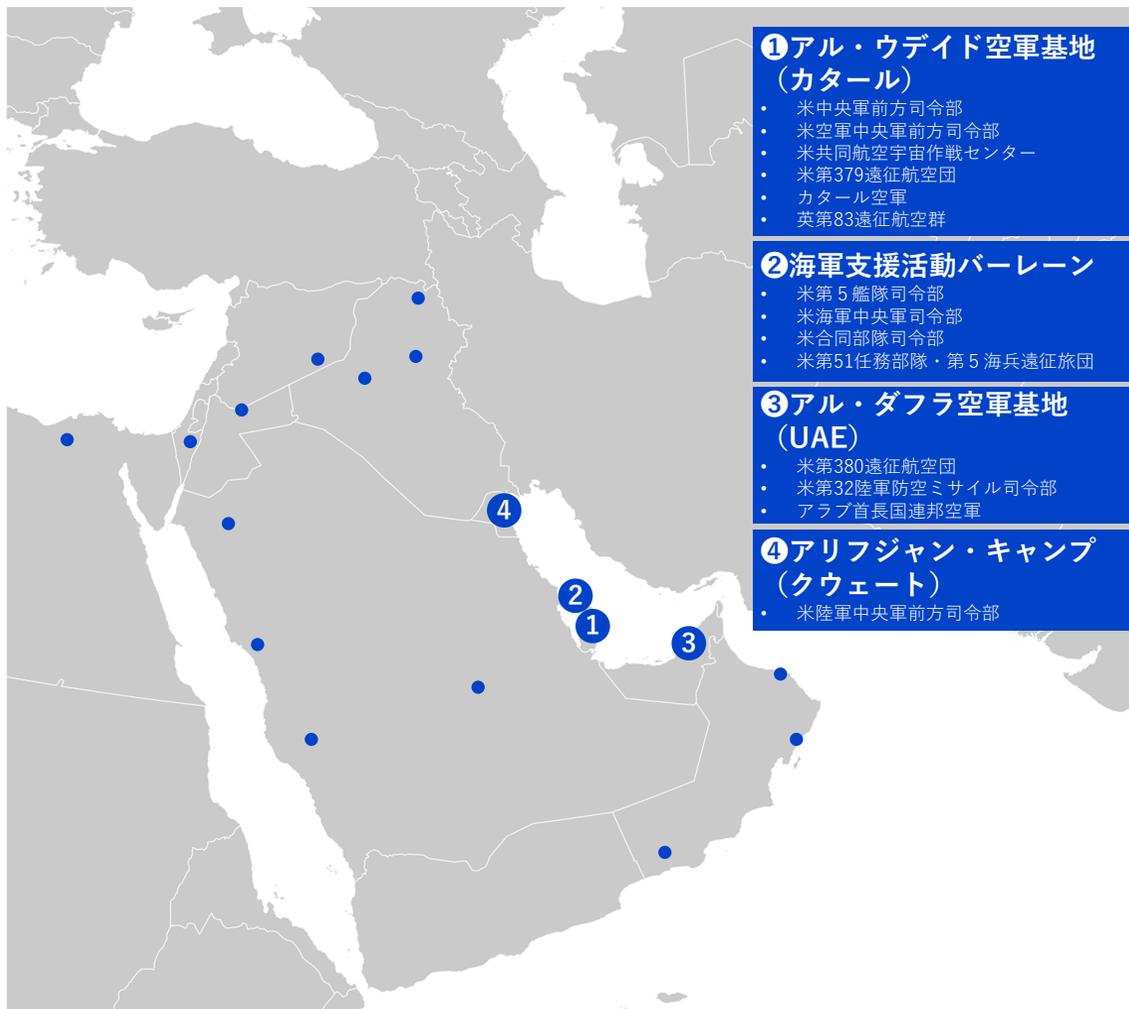
出所：国際戦略研究所

Cumulative confirmed missile, UAV and fighter-jet interceptions by the GCC states since 28 February 2026



The data is based on confirmed interceptions. Real figures are likely higher as some countries do not provide comprehensive data. Confirmed interception figures are lower than detection figures, as not all attacks are intercepted. Detection figures may be lower than total number of attacks, as not all attacks may be detected. Data cutoff at 10am Arabian Standard Time, 6 March 2026. GCC = Gulf Cooperation Council; UAV = uninhabited aerial vehicle. Sources: Regional authorities; Media outlets; IISS analysis.

中東におけるアメリカ軍の基地



米中央軍司令部は「イランは数百発の弾道ミサイル・数千機の自爆ドローンを発射したが、発射率は大幅に低下」とコメントも、UAEの被攻撃回数とは食い違い

米中央軍司令部による声明

出所：米中央軍司令部 Xアカウント (@CENTCOM)



s in Iran to stay at home. The Iranian
innocent lives. Additionally, Iranian
y of innocent people throughout the
ndiscriminately targeting civilian
neighborhoods.
y disregarding civilian lives by attacking
g the safety of their own people,” said
of CENTCOM.

Iran has launched hundreds of ballistic missiles and thousands of one-way attack drones since Feb 28. However, launch rates have drastically declined as U.S. and partner forces decimate Iran’s military capabilities.

The U.S. military takes every feasible precaution to minimize harm to civilians but cannot guarantee civilian safety in or near facilities used by the Iranian regime for military purposes. Unlike the Iranian regime, U.S. forces do not target or intentionally risk the safety of civilians.

- 中央軍司令部は3月8日公開した声明で、「2月28日以降、イランは数百発の弾道ミサイル・数千機の自爆ドローンを発射した。しかし、米国と同盟国の軍がイラン軍を壊滅させたため、発射率は大幅に低下した」とコメントしている
- しかしながら前頁の通り、3月3日以降、UAEに対するドローン攻撃は横ばいの状況が続いている
- 弾道ミサイルは残弾数が限られているとみられ、また発射直後に米海軍/空軍・イスラエル空軍が発射機ごと破壊する作戦を遂行している
- 弾道ミサイル対策は、発射機破壊とTHAAD（終末高高度防衛ミサイル）に頼らざるを得ない
- また、対艦ミサイルは米海軍・湾岸諸国海軍による迎撃・破壊に頼らざるを得ない
- 従って今後の（物理的な）課題は、着陸・着岸時の自爆ドローン対策といえる。

米軍・イスラエル軍によるイラン攻撃以降、ホルムズ海峡を通過する船舶が激減 緊急用船サーチャージや保険料の影響、戦争保険除外水域設定が影響

ホルムズ海峡の航路

出所：Getty Imagies

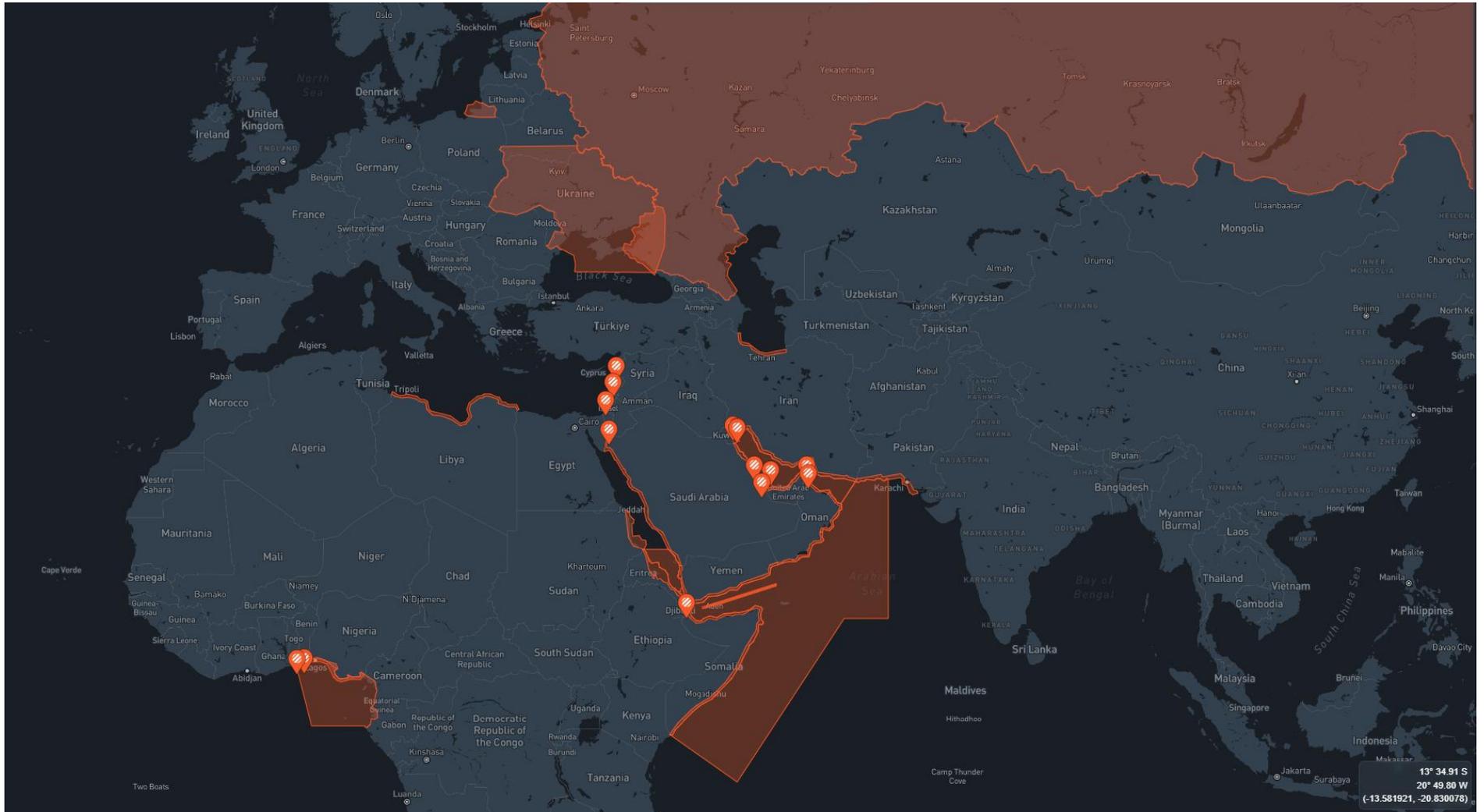


- 2月28日からイラン革命防衛隊はVHF無線で「どの船もホルムズ海峡を通行してはならない」と警告を発信
- 米海軍も安全航行が保証できないとして、ペルシャ湾全域・オマーン湾・北アラビア海・ホルムズ海峡での船舶航行を控えるように警告している
- 3月3日にJWC（Joint War Committee）はペルシャ湾全域とホルムズ海峡、アラビア海北西部を高リスク区域に指定した
- 高リスク区域では船舶が航行するのに必要な船舶戦争保険における「除外水域」とされる
- 除外水域では割増保険料が必要になるほか、事前申告や個別承認が必要になり、船舶運航のハードルが上昇する

参考：現在のJoint War Committeeが指定した戦争海域

アジア・北部アフリカ・欧州の戦争海域

出所：Marine Traffic



参考：物流各社による中東向け停止と代替港の全容

LOGISTICS TODAYがまとめた3月8日時点の海運物流各社対応

出所：LOGISTICS TODAY

船社	ブッキング状況	サーチャージ	特記事項
MSC	中東向け全面停止	End of Voyage宣言、800ドル/コンテナの強制転送チャージ	湾内に15隻・10万9000TEU滞留。 COSCO、PILと共にホルムズ通航を含む「ハイリスク」航路も停止
マースク	UAE、オマーン（サラールを除く）、イラク、クウェート、カタール、バーレーン、サウジ（ダンマーム・ジュベイル）のブッキング停止。リーフアー・危険品は同エリア全域停止	Emergency Freight Increase導入	湾内に14隻・7万TEU滞留。ジェッダ、キングアブドゥッラー港、サラールは稼働。 チャーター船マースク・シンシナティがオマーン湾入口でUターン
CMA CGM	湾岸向けブッキング停止。リーフアー・危険品も停止。スエズ運河通航も停止し喜望峰経由へ	緊急紛争サーチャージ（ECS）：20ft 2000ドル、40ft 3000ドル、リーフアー・特殊4000ドル	湾内の全船舶に退避・シェルター指示
ハバックロイド	湾岸向けブッキング停止。バブエルマンデブ海峡経由トランスエズ航路停止	戦争リスクサーチャージ（WRS）1500ドル/TEU、リーフアー・特殊3500ドル/TEU	IMXサービスを喜望峰経由に変更
COSCO	中東向けブッキング停止。ホルムズ通航含む「ハイリスク」航路停止	—	湾内に5隻（1万8980TEU型2隻含む）滞留
ONE	中東向けブッキング停止	—	—
HMM	当初は全面停止に至らず警告発出。その後停止へ移行したとの業界情報あり	—	代替ルーティングとコンティンジェンシープランを評価中
OOCL	中東向けブッキング停止	—	—
PIL	ブッキング停止。ホルムズ通航含む「ハイリスク」航路停止	—	—
Wan Hai	中東向けブッキング停止	—	Wan Hai A17（1万3100TEU）がムンバイ南方で2日間漂流、指示待ち
Evergreen	3月5日付で中東向けブッキング停止（バーレーン、クウェート、カタール、UAE、サウジ〈ジェッダ除く〉、イラク）	—	—

3月2日Qatar Energyの液化施設が攻撃を受け、LNG生産を停止 4日にはフォースマジュールを宣言し、完全にLNG輸出が停止している

Qatar Energy Ras Laffan液化施設の現状（2026年3月7日撮影）

出所：Airbus OneAltas



① Qatar Energy LNG (North)

- 旧Qatargas1-4
- 設備容量40.8mtpa
- 7Train

② Qatar Energy LNG (South)

- 旧Rasgas、Rasgas2-3
- 設備容量36.3mtpa
- 7Train

③ Qatar Northfield East Expansion

- 設備容量32mtpa
- 4Train

④ Qatar North Field South Expansion

- 設備容量16mtpa
- 2Train

- 3月2日にイランはカタール・Qatar EnergyのRas Laffan液化施設を攻撃した
- Qatar Energyの発表によると、工業都市内の発電設備に着弾したもよう
- 3月6日・7日撮影の高精度画像では特に大きな損傷は確認できない
- Qatar Energyは少なくとも2週間は施設を再稼働させない方針で、再稼働が決まってもフル稼働まで更に2週間かかる見込み

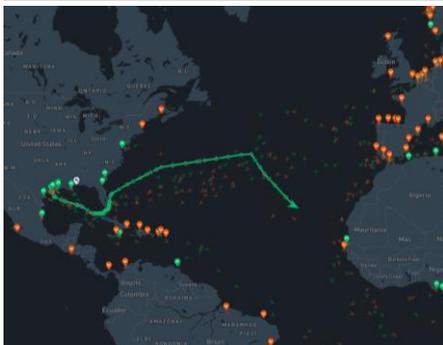
3月1日以降、欧州勢がLNGを積極的に転売する姿勢 7隻のLNG船がアジア方面に進路を転換した

3月1日以降に進路をアジア方面に転換したLNG船

出所：Kpler

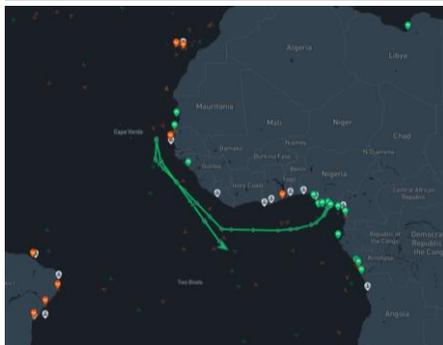
Elisa Ardea

発地：Freeport
着地：仏Gate→富津
荷主：EDF



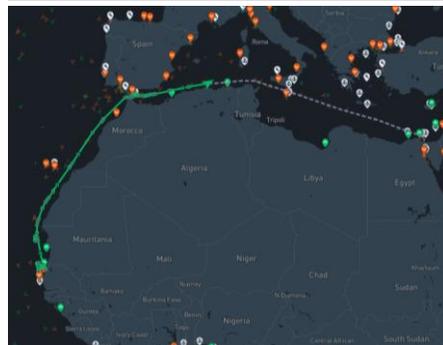
Pan Americas

発地：Bonny
着地：クロアチア・Krak Terminal→アジア
荷主：Shell



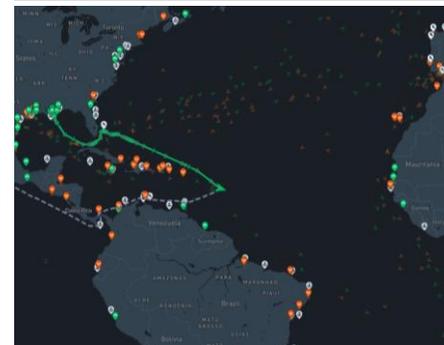
Aristos I

発地：GTA FLNG
着地：トルコ・Saros→エジプト
荷主：BP



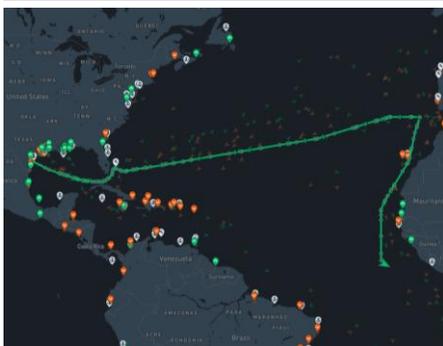
Umm Ghuwailina

発地：Plaquemines
着地：ベルギー・Zeebrugge→中国・天津
荷主：Qatar Energy



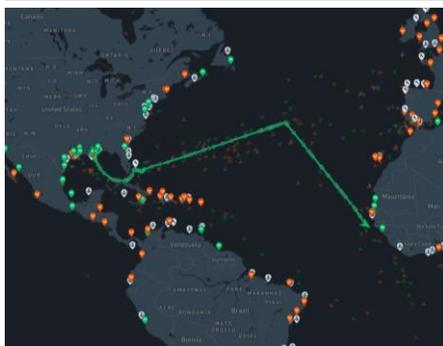
Clean Mistral

発地：Corpus Christi
着地：スペイン→アジア
荷主：Cheniere



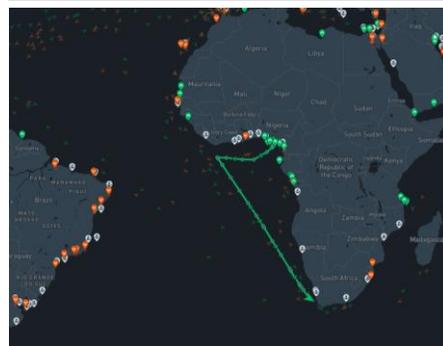
SIMSIMAH

発地：Plaquemines
着地：ベルギー→東アジア
荷主：Qatar Energy



Aristos I

発地：Bonny LNG
着地：フランス→アジア
荷主：Total Energies



ホルムズ海峡封鎖に伴う滞船でLNG船のスポット用船料が急上昇 大西洋航路では一時期USD375,000/日を超えた

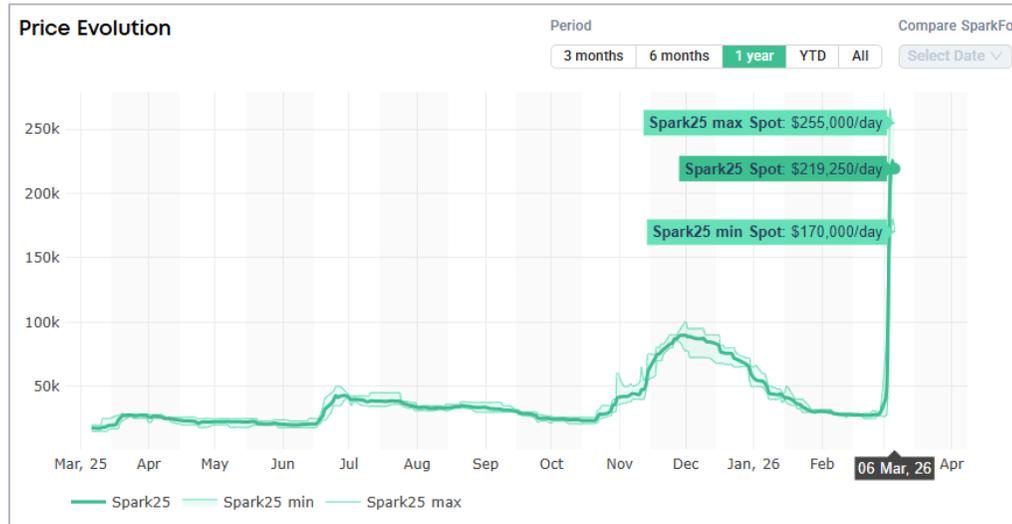
スポット用船料の推移

出所：Spark Commodities

大西洋航路
(Spark30)



太平洋航路
(Spark25)



台湾・インドは石炭備蓄強化や発電量増加に向けた輸入拡大を模索 石炭価格も急上昇している

エネルギー危機を受けた主要国の石炭転換の取り組み

出所：各種報道

台湾

- LNG供給が不足する可能性に備えて一般炭在庫の増強検討を始めている
- 台湾経済部は3日に台湾電力新塔石炭火力発電所1号機～4号機（合計2.1GW）の再稼働が可能になると発表し、LNG不足に備える方針

インド

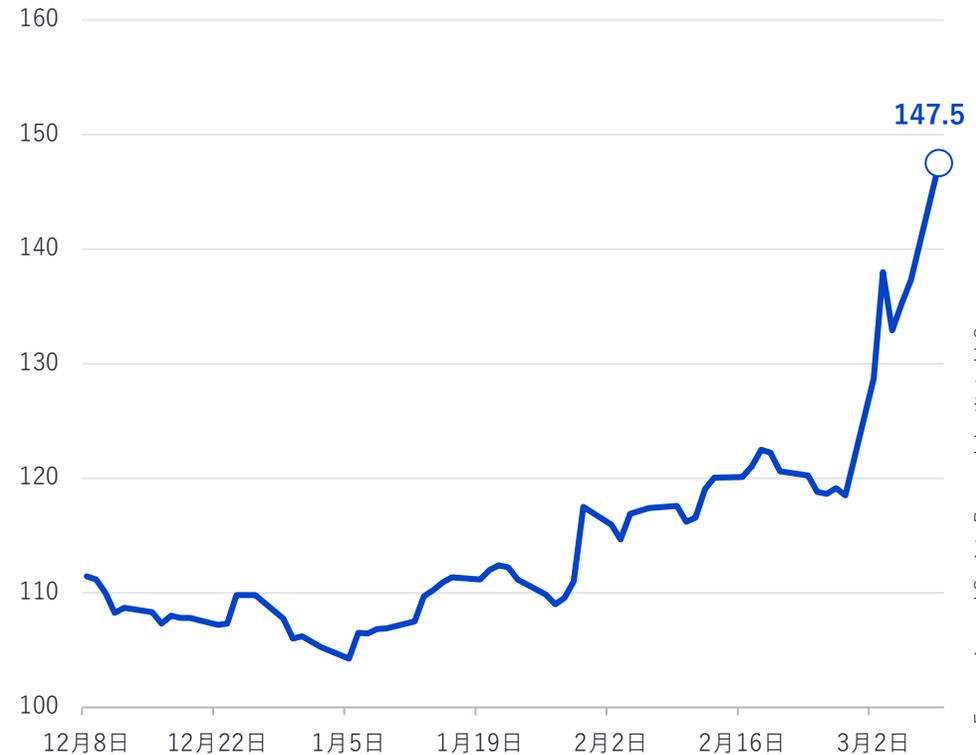
- 輸入石炭火力発電所に対し、発電量増加と夏季ピーク需要への燃料調達計画策定のため、緊急石炭輸入指令の発出を検討
- インド電力省は、輸入石炭火力発電所に対し発電量増加を指示する権限を政府に与える電力法第11条の発動案を検討
- 本指令は2021年から2025年6月30日まで有効だった

イタリア

- イタリアのエネルギー相は水曜日、中東の紛争がエネルギー危機を引き起こした場合、一部の石炭火力発電所を再稼働させる可能性があるとのコメント

Newcastle石炭先物（4月限）の価格推移

単位：USD/t 出所：ICE

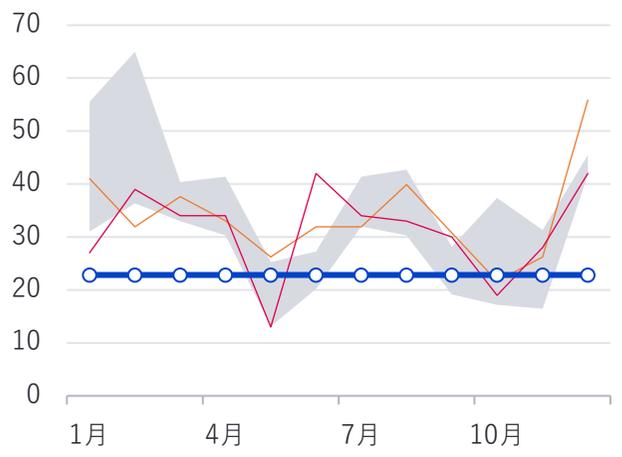


日本の電気事業者では東北電力が最も厳しい 他方で前頁の通り、JERAもLNGを4月にスポット調達しているとみられる

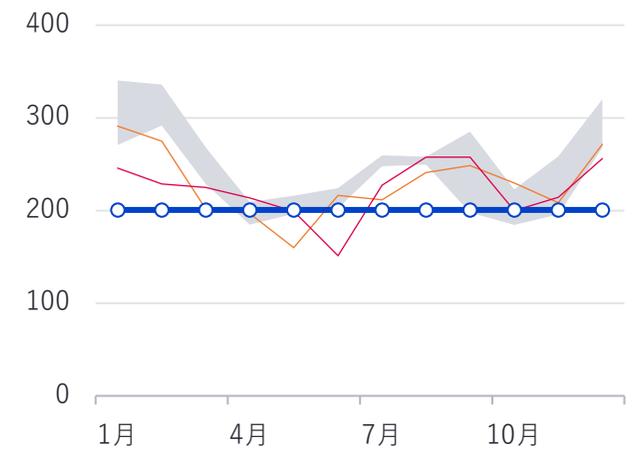
LNG調達の多い電力会社(払出量1mtpa以上)における推定月次LNG消費量と長期契約確保量

単位：万トン

東北電力



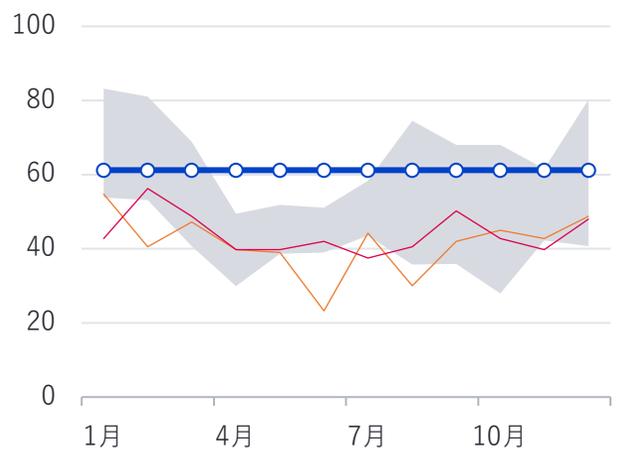
JERA



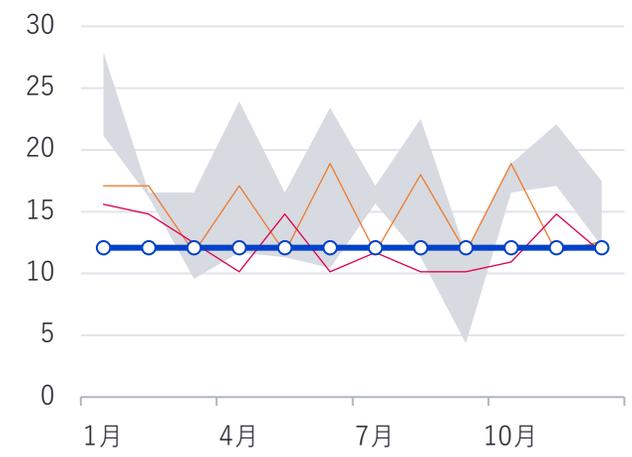
-凡例-

- 長期契約確保量
※大抵、高需要期に多くのカーゴがデリバリーされるよう、液化施設と調整する。今回は、年均等配分とした
※ペルシャ湾に所在するQatarGasとADNOCの長期契約は除外した
- 2020-2022年の推定LNG払出量
※船舶追跡サービスから基地毎の受入量を取得し、各社有価証券報告書における払出量と比較、比率配分
- 2023年推定LNG払出量
- 2024年推定LNG払出量

関西電力



中国電力



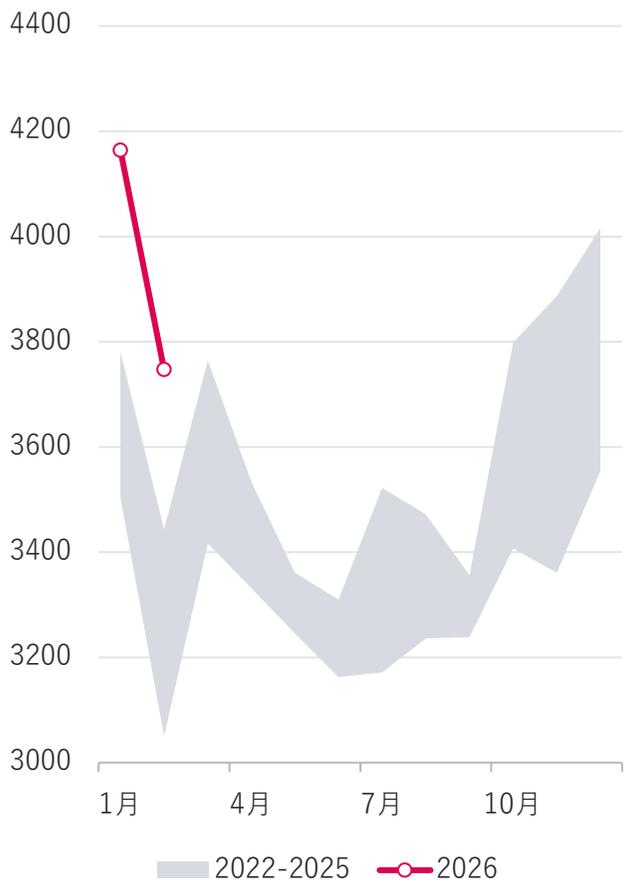
九州電力



世界の月次LNG出荷量は2026年に入ってから過去最高を記録していた 今後の焦点はホルムズ封鎖期間とLNG需要の変動といえる

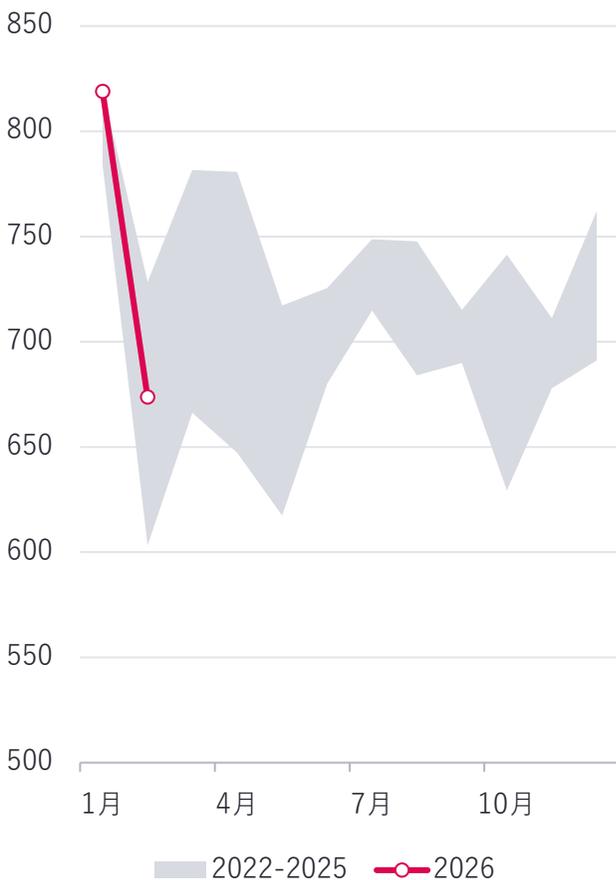
世界の月次LNG輸出量

出所：Kpler



カタール・UAEの月次LNG輸出量

出所：Kpler

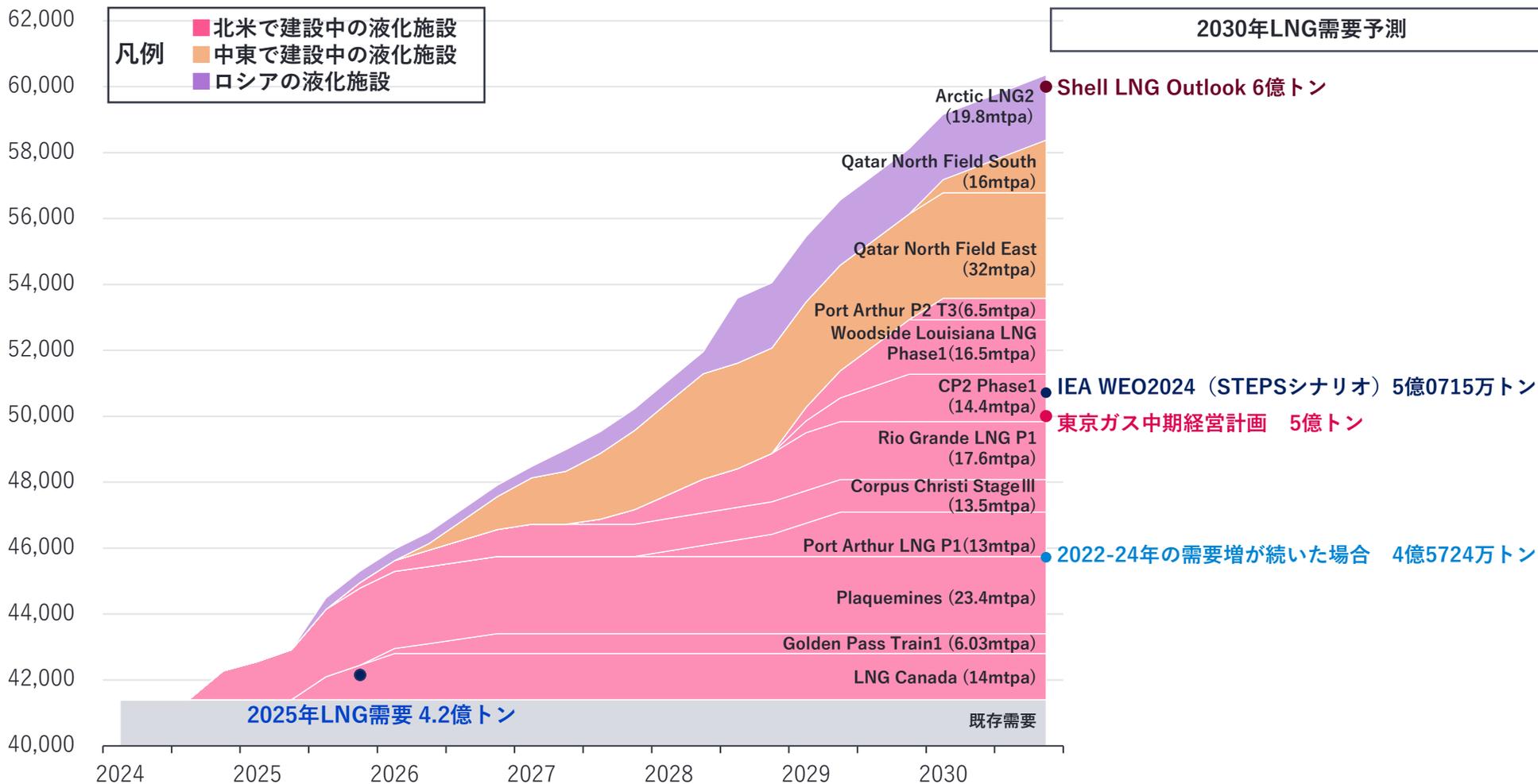


- 2022年～2025年の世界月次LNG輸出量では、2月の最小値は3050万トン(2022年)
- 今年2月は3747万トン出荷しており、2022年との差は697万トン
- カタール・UAEの月次輸出量は平均712万トン
- ①過去4年間で増加したLNG需要を抑えて、②2022年水準まで価格が高騰すれば需給はバランスする

他方で足元で月次350万トン、年末までに400万トンのLNG供給力が増加 米国の液化施設が予定通り運開すれば2022年ほどの価格高騰には至らない可能性

世界のLNG市場を取り巻く今後のシナリオ

単位：万トン



カタールの既存設備が即座に通常生産・輸出再開しても Northfield East(NFE)・South(NFS)の建設は遅延が予想される

世界のLNG市場を取り巻く今後のシナリオ

単位：万トン

